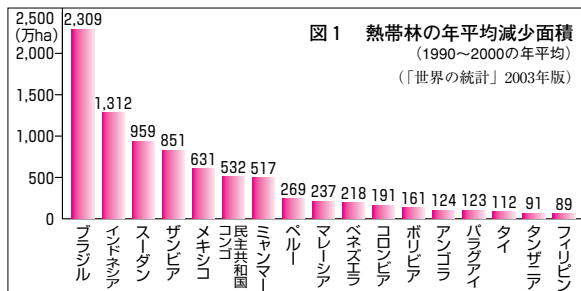


ボルネオ（カリマンタン）島の熱帯林破壊

同志社香里高等学校 湯浅博

はじめに

熱帯林の伐採の写真をしていると、ほぼ例外なく森林が丸裸にされている。これでは土壌が流されて再生は不可能である。しかもそこに棲息していた動物は他の森林に移るか（実はこれは難しいことである）、絶滅するしかない。図1を見ると熱帯林の破壊はブラジルをはじめ世界中に及んでいることがわかる。現在、熱帯林は1年間に日本の国土の40～60%に相当する面積が失われ、過去には陸上面積の16%を占めていたのに、1975年ころまでにその42%が伐採され、90年には、陸地の7%にすぎなくなった。なぜそんなに消失したのであろうか。その理由は地域により多少異なるが、日本もその責任を負わなければならない。その現状と問題解決策を考えさせる授業を試みた。



1 現地レポート

BORNEOとはブルネイから転訛したものでマレー語で「風下の国」の意味である。KALIMANTANは、原住民ダヤク族の中で最も早くボルネオ島に到着した部族の名称である。したがってボルネオはマレーシア領での呼称で、カリマ

ンタンはインドネシア領での呼称となる。

「楽しく学ぶ世界地理B」p.206の「現地レポート」に私の体験をつけ加える。

私は2年前にボルネオのキナバル山に登ったことがある。下山後中心都市コタキナバルからサンダカンまで約40分飛行機に乗り眼下を見た。蛇行している河川の両側に黄緑色の丸い樹冠の森林が広がっていたが、町に近づくにつれて緑が濃くなり木々の密度も疎らになった。それが油やしのプランテーションだと降りてから知った。マイクロバスでその農園を砂ぼこりをあげて数時間走り、セピロックという「オランウータン保護区」に到着した。そこは、オランウータンが将来森に戻った時に生活ができるようにという「リハビリテーションセンター」と呼ばれていた。何段階にも分けて訓練されているのである。餌台の前に多くの観光客がいて、オランウータンのやって来るのを1時間以上も待っていたが来なかった。「オランはおらん」といていた人の中にも、「何がリハビリだ」と思った人もいたはずだ。私は人間が森林を丸裸にしなければそんな必要もないのに、こんなのをリハビリというのかと疑問を感じた。

2 各国の森林面積の割合を調べて

全国土の何%が森林かというのを調べさせてみる。残念ながら新しい統計がなく、表1は1994年のものである。アフリカ、東南アジアは世界の上位にあるが、問題はこの数字が維持できるかどうかである。森林面積と裏腹の関係にある木材輸入について調べさせよう。日本は世界3位の木材輸入国だが、ラワンの輸入先の変化を見てみると、

表1 森林面積の割合
(%, 1994)

カメルーン	75.5
中央アフリカ	75.0
コンゴ共和国	74.1
フィンランド	68.6
マレーシア	67.6
カンボジア	67.4
日本	66.2
ブータン	66.0
ペルー	66.0
スウェーデン	62.2
インドネシア	58.7
フィリピン	45.3

出典 FAO 生産年鑑 1995

最初はフィリピン（現在のこの国の森林面積は45.3%）、次に1980年まではインドネシア（同58.7%、この国は85年に激減）、その後マレーシアが90年まで増加し、それから激減している。「新詳高等地図」のおもな国の森林面積の変化によると、1995年にはインドネシアは60.6%に回復し、マレーシアは47.1%と激減している。日本が木材を輸入しているのだけが原因ではないかもしれないが、進出して行って開発したところは次々と森林面積が減り、開発がとまると森林は回復している。それは自然による再生だけでなく、人工的に植林活動をしていることも大きい。多種多様な元の植生になっているかどうかはわからない。森林の伐採は何も木材を得るためばかりではない。中南米ではハンバーガー用の牛肉を調達する牧場の開発のため、アフリカでは薪を得るため、東南アジアではエビの養殖に、最初は水田や塩田が当てられていたが、不足してきたので、マングローブが伐採されているためである。我々の生活様式が変化しなければ、森林の伐採はどんどん進行していく。

3 人々の生活の変化と問題解決策

古くから水産業では海も大切だが、そこに流れ込む川の源流の森を守ろうといわれてきた。「森が豊かであれば海も豊かである。」といわれた。まさしく地球規模での環境問題である。どのような方法であれば、動植物の生態系と森に住む人々の生活を守りながら森の環境維持ができるのかを生徒に議論させてみよう。

アフリカをはじめ世界の熱帯雨林で研究をして

きた日本の学者は、森林を伐らずに現金収入を得る方法のひとつが、エコ・ツーリズムであると主張している。すでに世界のあちこちで実施され、ユネスコの世界遺産委員会もこの考えに同意している。



テングザルの雄（ボルネオ）

のを見たり、昼間は眠っているので安全と日本では見られない蛇類を見て、まだまだ知らない世界があることを知った。このツアーでは、確かに現地の人々はそんなに投資を必要としない。自分の経験や知識が重要な観光資源なのである。

他にも熱帯林を破壊から救う方法はあるかもしれない。これからも生徒たちとともに勉強していきたい。

おわりに

森林を伐採してもラワンを植林すればよい、その方が経済的だと考えている生徒もいる。また熱帯林の開発でその地域が豊かになっているのになぜと質問した生徒もいた。需給のバランスを考えれば再生可能な資源なので、いろいろな地域の例を挙げ、地球の将来のために多種多様な生態系を保つ重要性を認識させるべきだ。